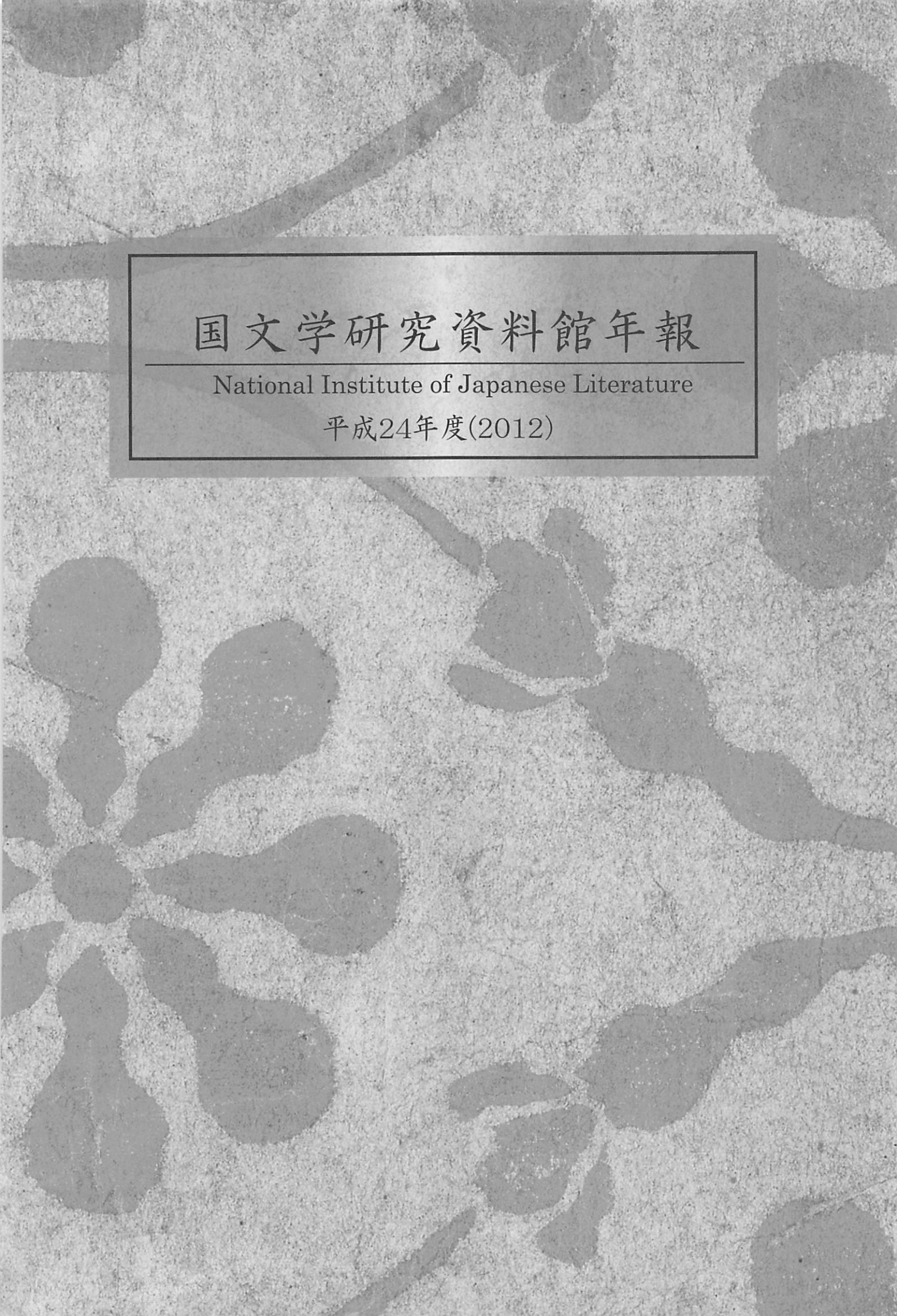


The background of the entire cover is a light beige, textured paper. It is decorated with a large, stylized yellow floral pattern. The pattern consists of several large, rounded petals and stems, rendered in a bright yellow color. The pattern is spread across the entire cover, with some areas being more dense than others.

国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成24年度(2012)



国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成24年度(2012)



口絵 1 国文学研究資料館（外観）



口絵 2 源氏物語（当館蔵）



口絵3 サテライト講座「近代文学」



口絵4 アーカイブズ・カレッジ

はじめに

国文学研究資料館は、昨平成24年に創設40周年を迎え、本年からは50周年に向かつての新しいサイクルに入りました。

品川区戸越からの移転後5年を経た立川での事業・研究体制も安定し、創設以来継続してきた調査・収集事業、また立川の充実した設備を生かした展示、館外の研究者との共同研究プロジェクトの実施などを滞りなく実施・遂行しています。

新設備の機能を生かした展示は、源氏千年紀の特別展示、一昨年秋の陽明文庫の国宝を含む貴重書展示、昨年の方丈記800年記念展示など、いずれも好評を博してきましたが、本年度からはいささか方針を変え、本館所蔵の典籍を中心とした常設展示を軸に、来館者に本館の事業と研究の姿を示す展示に力を入れることになりました。これによって、従来、年数回の特別展示に伴う展示替えのための休室期間を大幅に減らし、展示室の有効活用と経費節減を兼ねた運営を目指します。

事業計画としては、一昨年、昨年と2年間にわたって運営費交付金特別経費の交付を受けて実施してきた館蔵資料ならびに収集マイクロフィルムのデータベース化が、本年からさらに本格的な展開を開始します。

それは、日本学術会議の提言にもとづいて計画された「日本語の歴史的典籍のデータベース構築」プロジェクトで、20の拠点大学との共同作業による『国書総目録』所載典籍の全冊画像データベースの作成です。

国文学研究資料館では、昨年、学術会議の提言に基づく計画を作成し、学術審議会のヒアリングを経て、25年度から10年間にわたる大型プロジェクトとしての概算要求をおこないました。残念ながら、25年度の「大規模学術フロンティア促進事業」の選には漏れましたが、幸いにも26年度に向けて再チャレンジへの準備経費が計上され、内容の見直しも行なって、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」として準備しているところです。

館ではそれを受けて、新組織「古典籍データベース研究事業センター」を立ち上げ、特任教授1名以下、特任准教授、ポスドク研究員等を任用、事務部門も新設して、事業を開始すると同時に、来年度「フロンティア促進事業」採択に向けての準備に専念します。

この事業は、館創設以来の調査・収集事業、古典籍総合目録データベース作成というこれまでの事業の総決算でもあり、50周年に向けてその実現にたゆみない努力を続けていく所存です。

人間文化研究機構
国文学研究資料館長

今 西 祐一郎

国文学研究資料館年報

平成24年度（2012）

目 次

館長挨拶

I 共同研究	1
1. 基幹研究	1
2. 特定研究	7
3. 国際連携研究	14
II 情報事業センター	16
1. 調査収集事業部	16
2. 電子情報事業部	17
3. 情報資料サービス事業部	23
4. 学術企画連携部	31
i) 国際交流室	31
ii) 展示企画室	33
iii) 広報出版室	35
III 新収和古書一覧	40
IV 各教員実績一覧	52
V 科学研究費助成事業実績一覧	76
VI 刊行物一覧	77
VII 外国人研究員・外来研究員	78
VIII 海外出張・研修一覧	80
IX 各種委員会一覧	86
X 運営会議委員、幹部職員一覧	116
XI 大学院教育	118
XII 管理運営（総務・財務）	123
付 賛助会	127

付

賛助会

【概要】

国文学研究資料館では、平成 19 年度から、当館が行う日本文学研究の推進、若手研究者への奨励、国際交流及び社会連携等の諸活動に幅広く支援を得るために賛助会を設置し、平成 24 年度の会員数は、特別会員 1 名、賛助会員（個人）48 名、賛助会員（団体）1 名である。

【会員募集要項】

1 募集対象

当館の事業趣旨に賛同する個人・団体を対象。

2 会員期間

入会日から入会日の属する年度の年度末まで。

3 寄附金

特別会員 一口 10 万円

賛助会員（個人） 一口 3 千円

賛助会員（団体） 一口 1 万円

4 入会申込みと寄附金払込みの方法

入会にあたっては、「会員募集のご案内」に添付の申込書を郵送してもらう。

別途、当館から入金に関する案内を返送する。

5 入会した際の優待

（1）当館が開催する講演会、展示、シンポジウム、研究集会等の催し案内を送付する。

（2）当館が刊行する広報誌（概要・ニュース）を送付する。

（3）特別会員、10 口以上の賛助会員（個人）及び 3 口以上の賛助会員（団体）は、希望により館内に名前（社名等）を掲示する。

（4）特別会員及び 10 口以上の賛助会員（団体）は、希望により当館のホームページに社名等を掲載する。

（5）その他、当館が主催する催しについて各種優待をする。

【日本古典文学学術賞】

当館賛助会では、日本古典文学会賞を継承し、若手日本古典文学等研究者の奨励、援助を目的として、日本古典文学学術賞を制定している。

本学術賞の対象者は 40 歳未満の研究者であり、1 回の授賞は 3 名以内までとしている。対象とする業績は前年の 1 月から 12 月までに公表された、日本古典文学に関する論文又は著書としている。

選考方法は、当館賛助会に設置している選考委員会委員からの推薦及び過去の受賞者からの推薦による対象者の論文を選考委員会で審議を行うこととしており、受賞者には賞状と賞金 20 万円を授与することとしている。

第5回日本古典文学学術賞（対象年：平成23年）

受賞者：平野多恵氏（十文字学園女子大学短期大学部准教授）

研究業績：『明恵 和歌と仏教の相克』 笠間書院 2011年2月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
TEL:050-5533-2900 FAX:042-526-8604

URL:<http://www.nijl.ac.jp>

National Institute of Japanese Literature(NIJL)

National Institutes for the Humanities

Address:10-3 Midori-cho,Tachikawa city,Tokyo 190-0014,Japan

Telephone:+81-50-5533-2900 Facsimile:+81-42-526-8604